

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和 3 年度技術情報第15号（果樹カメムシ類）について（送付）

予察灯での誘殺虫数は概ね平年並みに推移していますが、8月23日～24日の餌植物（ヒノキ球果）での発生調査では、チャバネアオカメムシが平年に比べて多くみられ、一部の果樹園では飛来を確認しました。園内外をよく見回り、飛来に注意してください。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jpnpn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。



令和 3 年度技術情報第15号

1 対象病害虫 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

2 対象作物 カンキツ，ナシ等

3 発生状況等

- （1）果樹カメムシ類の餌であるヒノキの球果で、チャバネアオカメムシの成虫、幼虫とも平年に比べて多く確認された（表1）。
- （2）ヒノキ球果の劣化程度を示すカメムシ類による口針鞘数は、8月23日～24日の調査で3.1～11.1本/果（平均7.6本/果）となり、出水市、いちき串木野市では10本/果以上であった（表2）。なお、今年のヒノキの球果量は平年並みとなっている（表3）。
- （3）日置市、出水市、さつま町の一部の果樹園では8月下旬に飛来を確認した。
- （4）8月第5半旬時点で、予察灯での誘殺虫数はツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシともに平年並みに推移している。

4 防除上注意すべき事項

- （1）果樹カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるため、園内外をよく見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。特に収穫期を迎えているナシや収穫前の極早生温州等では注意する。
- （2）台風が接近すると、スギやヒノキの球果が落果し果樹園へ飛来する場合があるので、注意する。
- （3）飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ミカンハダニの発生を助長するので、散布後の発生に注意する。
- （4）防除にあたっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

5 参考データ

表1 ヒノキ球果での発生虫数（8月23～24日調査）（単位：頭/5枝）

市 町	ツヤアオカメムシ		チャバネアオカメムシ	
	幼虫	成虫	幼虫	成虫
いちき串木野市	0.0	0.0	1.0	4.0
阿久根市	0.0	0.0	0.0	0.5
出水市	0.0	0.0	1.0	4.0
さつま町	0.0	0.0	3.0	2.0
霧島市	0.0	0.0	4.0	4.0
曾於市	0.0	0.0	0.0	2.0
本 年	0.0	0.0	1.3	2.6
平 年	0.0	0.1	0.2	1.0

注1) 県内8地点で、1地点あたり5枝の結果枝を調査した

2) 平年は、2011～2020年の10年間の平均

表2 ヒノキ球果の吸汁痕数（口針鞘数）の推移（単位：本/果）

	7月		8月	
	前期	後期	前期	後期
いちき串木野市	0.0	0.7	6.9	10.0
阿久根市	0.0	0.5	1.2	3.1
出水市	0.2	2.9	7.7	11.1
さつま町	0.0	0.0	1.9	7.3
霧島市	0.0	1.5	4.1	6.7
曾於市	0.0	0.1	8.3	8.4
本年	0.0	1.1	4.9	7.6
平年	0.3	2.6	6.0	10.0

注1) 平年は、2011～2020年の10年間の平均

2) カメムシがヒノキ球果から離脱する目安は、口針鞘数25本/果

表3 餌植物（ヒノキ）の球果量指数

調査地域	本年	平年
南薩	30.2	43.3
北薩	56.0	43.3
始良	54.3	43.3
大隅	38.1	38.8
県本土	45.8	43.1

注1) 球果量は目視による達観調査（ヒノキ29地点）、評価は7段階（極多、多、やや多、中、やや少、少、極少）

2) 球果量指数は愛媛県（2018）による。球果量が多いと指数が高く、少ないと指数が低くなる

3) 球果量指数： $((\text{極多地点数} \times 7) + (\text{多地点数} \times 6) + (\text{やや多地点数} \times 5) + (\text{中地点数} \times 4) + (\text{やや少地点数} \times 3) + (\text{少地点数} \times 2) + (\text{極少地点数} \times 1)) / (\text{総地点数} \times 7) \times 100$

4) 平年は、2011～2020年の10年間の平均

ツヤアオカメムシ

チャバネアオカメムシ

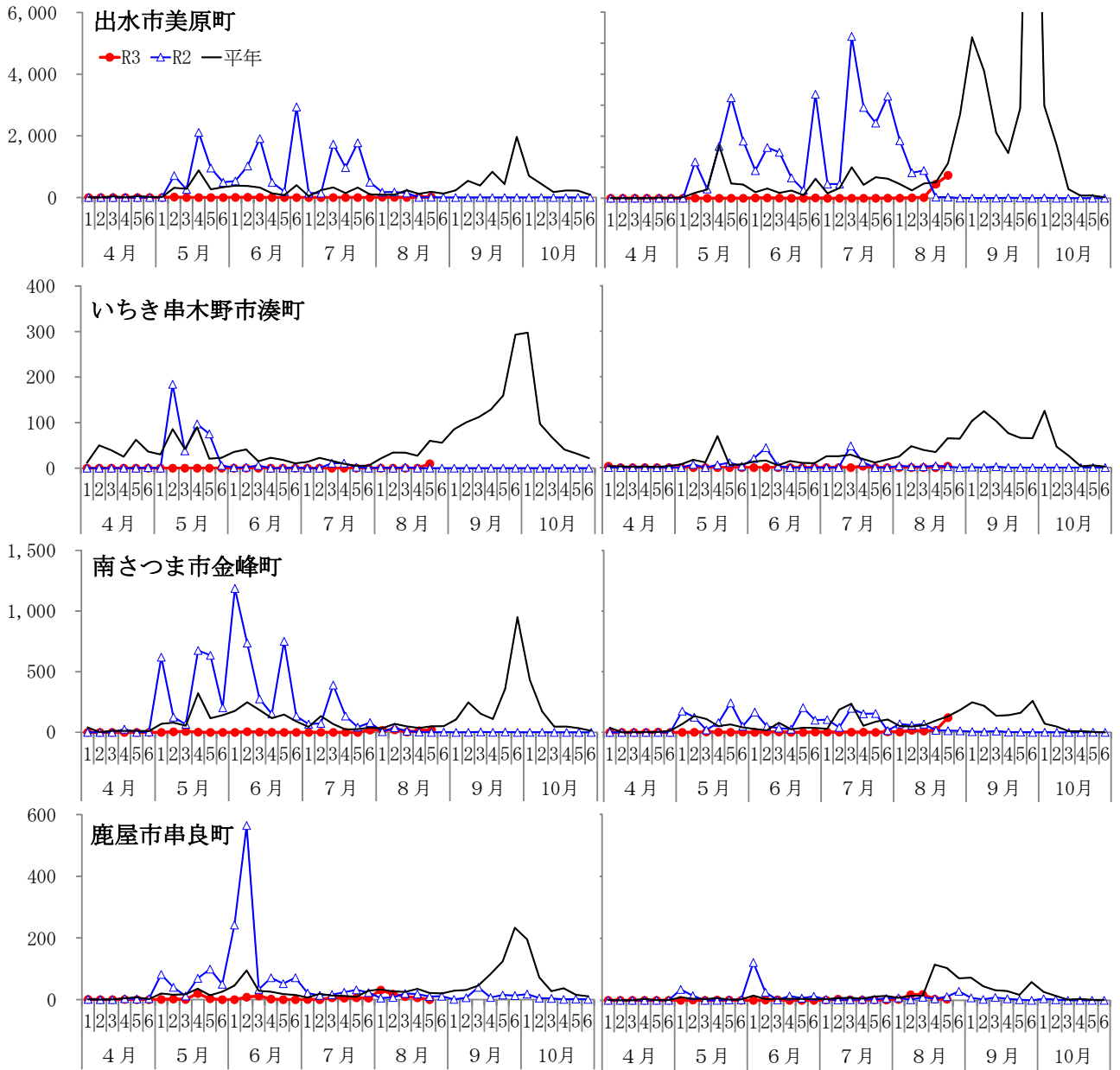


図1 予察灯での果樹カメムシ類誘殺虫数の推移